

敬称略（ごめんなさい）、一部聞き取りづらかったセリフや叫びなどは省略

平田「いや…さーまだ途中だけどさー…情報が沢山ありすぎてもう頭の中がわーっとなってる。エネルギーすごいわーって使ってる」

木戸「なんかお腹空きましたー！」

平田「空いた！」

平田「焼き肉に…行きませんか！」

木戸「えっ行きたいです行きたいですー！」

野村「あっ…でもー…」

平田「なんか予定あるの？」

野村「あっいえ大したことじゃないんですけどー…特売で材料安く買えたので今日はコロッセを大量に作ろうと思ひましてー！」

木戸「あっそういえばー私もプチシューを大量に買い込んでたんだっただーなんか袋に貼ってあるシールを集めたらおまけでお皿がもらえる春のプチシューまつりがあるってー今お家がプチシューだらけなんですよねー」

平田「へえ、皆すごいな。えっ二人共節約とか、おまけのゲットとか、ちゃんとしてるんだね！めっちゃすごい！」

木戸「課金したいんで」

平田「あっ大事！」

わかちこ「チュースシューシューシュー」

平田「あっお疲れ様ですー！」

わかちこ「今日の後半も、よろしくお願いしゅすね！」

3人「よろしくお願ひしますー」

わかちこ「なんかすごい盛り上がってるみたいですけど…何話してたんすか？」

平田「なんかね…お若い二人がしっかり節約して、ちゃんとシール集めたりとかちゃんとしてるって話してたの、すごい？」

わかちこ「ええーっ！そんな経済感覚をお持ちなんですか！」

平田「すごいよ！」

木戸「貯金したいんで」

平田「大事」

わかちこ「素晴らしい！でも、そんな経済感覚を持ってらっしやるんだったら…勿論知ってますよね？」

木戸「え？」

野村「ん？」

わかちこ「アソビストアで…ミリオンジュエルが…お買ひ得に買えるということを！！」

木戸「WOOOOOOOOOOO！」（なんかイエティみたいな叫び）

(木戸ちゃんが台本を見失って間ができる)

わかちこ「アソビストア

木戸「アソビストアでー！」

平田「ミリオンジュエルがー！」

野村「お得に買えるー！」

三人「うわー！」

わかちこ「最高です。最高ですよ。ナイス演技でした。」

木戸「んまあちょっとあのー…台本見失っちゃったかな。」

わかちこ「うん！あるあるあるある」

木戸「えっでもお得に買えちゃうんですか？」

わかちこ「そうなんですよ！…みなさんちょっと今の寸劇じゃ伝わってない可能性ありますよね！私ちゃんとプロデューサーとして皆さんにきちんと情報をお届けしたいと思う」

木戸「ありがとうございます」

わかちこ「それでは皆さんこちらにご注目！よろしいですか？まず皆様…通常通り、アプリ内のジュエル購入画面の場合、仮に一万円分購入していただきますと、ミリオンジュエルは8450個！獲得することができます。」

木戸「いつもお世話になってます」

わかちこ「そうそうおなじみでございます。ところが、こちらをアソビストアで購入していただきますと！この8450個のジュエルに加えて！更に！無償ジュエルを約5%分の425個、含めたセットで購入いただけるようになるんです！」

3人「なな…なんだってー！」

わかちこ「しかも！それだけじゃないんです！アソビストアでの購入がお得な所はこれだけではございません！同じ価格で5%分の無償ジュエルを獲得できることに加え！おまけとして…マスタースタイルドロップ75個がついてきちゃうんです！！」

木戸「これがあれば、スタイルドロップが足りなかったあの衣装も、スタイリングレッスンができる！絶対欲しい！」

野村「ちょっとマネージャーさん！今すぐ購入したいのでー私のスマホを持ってきてくださー！」

わかちこ「こんな風に、アソビストアではお買い得にミリオンジュエルをゲットすることができるんです！皆さん、販売開始は今後になりますが、ぜひアソビストアで！ミリオンジュエルをゲットしてください。」

名前ないバージョン

「いや…さーまだ途中だけどさー…情報が沢山ありすぎてもう頭の中がわーっとなってる。エネルギーすごいわーって使ってる」

「なんかお腹空きましたー！」

「空いた！」

「焼き肉に…行きませんか！」

「えっ行きたいです行きたいですー！」

「あっ…でもー…」

「なんか予定あるの？」

「あっいえ大したことじゃないんですけどー…特売で材料安く買えたので今日はコロケを大量に作ろうと思ひましてー！」

「あっそういえばー私もプチシューを大量に買い込んでたんだっただーなんか袋に貼ってあるシールを集めたらおまけでお皿がもらえる春のプチシューまつりがあるってー今お家がプチシューだらけなんですよねー」

「へえ、皆すごいな。えっ二人共節約とか、おまけのゲットとか、ちゃんとしてるんだね！めっちゃすごい！」

「課金したいんで」

「あっ大事！」

「チュースチューズチュース」

「あっお疲れ様ですー！」

「今日の後半も、よろしく願いしゅすね！」

「「「よろしく願いしますー」」」

「なんかすごい盛り上がりてるみたいですけど…何話してたんすか？」

「なんかね…お若い二人がしっかり節約して、ちゃんとシール集めたりとかちゃんとしてるって話してたの、すごい？」

「ええーっ！そんな経済感覚をお持ちなんですか！」

「すごいよ！」

「貯金したいんで」

「大事」

「素晴らしい！でも、そんな経済感覚を持ってらっしゃるんだったら…勿論知ってますよね？」

「え？」

「ん？」

「アソビストアで…ミリオンジュエルが…お買い得に買えるということを！！」

「WOOOOOOOOOOO！」

(木戸ちゃんが台本を見失って間ができる)

「アソビスト

「アソビストアでー！ー！」

「ミリオンジュエルがー！ー！」

「お得に買えるー！ー！ー！ー！」

「[[うわー！ー！ー！ー！]]」

「最高です。最高ですよ。ナイス演技でした。」

「んまあちょっとあのー…台本見失っちゃったかな。」

「うん！あるあるあるある」

「えっでもお得に買えちゃんうですか？」

「そうなんですよ！…みなさんちょっと今の寸劇じゃ伝わってない可能性がありますよね！私ちゃんとプロデューサーとして皆さんにきちんと情報をお届けしたいと思う」

「ありがとうございます」

「それでは皆さんこちらにご注目！よろしいですか？まず皆様…通常通り、アプリ内のジュエル購入画面の場合、仮に一万円分購入していただきますと、ミリオンジュエルは 8450 個！獲得することができます。」

「いつもお世話になってます」

「そうそうおなじみでございます。ところが、こちらをアソビストアで購入していただきますと！この 8450 個のジュエルに加えて！更に！無償ジュエルを約 5%分の 425 個、含めたセットで購入いただけるようになるんです！」

「[[なな…なんだってー！ー！]]」

「しかも！それだけじゃないんです！アソビストアでの購入がお得な所はこれだけではございません！同じ価格で 5%分の無償ジュエルを獲得できることに加え！おまけとして…マスタースタイルドロップ 75 個がついてきちゃうんです！！」

「これがあれば、スタイルドロップが足りなかったあの衣装も、スタイリングレッスンができる！絶対欲しい！」

「ちょっとマネージャーさん！今すぐ購入したいのでー私のスマホを持ってきてくださるー！」

「こんな風に、アソビストアではお買い得にミリオンジュエルをゲットすることができるんです！皆さん、販売開始は今後になりますが、ぜひアソビストアで！ミリオンジュエルをゲットしてください。」